

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ
どうぞふるってご参加ください。

ふる里散歩



10/19 「第3回 てんた里山バザール」
日 巻
「ほとけどじょうの里」で今年も「てんた
里山バザール」を開催します。(中ページ参照)
時 間/午前11時～午後3時 ★雨天中止

みを分けてもらって、世界にたった一つの
リースを作ります。
午前中は山歩き、昼食後リースを作ります
が、雨天の場合は午前中からリース作りと
なります。
集 合/郷土館玄関前 午前9時半
要申込/先着15名 てんたの会 042-974-1691 浅野
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
申込先/てんたの会 042-974-1691 (浅野)
参加費/1500円(大人、子ども共に同じ)

11/23 天覧山谷津の里づくりプロ
日 ジェクト「里山復活祭」の巻
★昼食付き★雨天11/24に順延
天覧山下の“ほとたの里”で谷津田の保全作業
を行います。谷津田で出来たごはんで昼食！
集 合/市民会館北側中央公園
トイレ付近 午前9時
持ち物/軍手・タオル・飲み物
参加費/無料
要申込/042-973-2125 はんのう市民環境
会議事務局(市役所環境緑水課)
主 催/はんのう市民環境会議
協 力/てんたの会



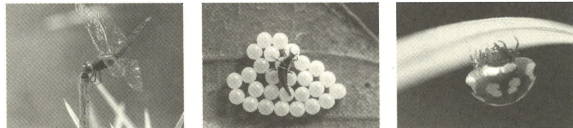
1/1 2015年
木 「初日に祈る山歩き」の巻
★雨天中止
異常気象や災害が続き、自然の底知れなさ
を痛感します。新しい年の平安を願い山を
歩きましょう。
集 合/能仁寺山門前 午前6時15分
申 込/不要
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/無料

【*を除く各回共通 共催/はんのう景観トラスト、
(公財) 埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部】

12/14 「里山のリース作りエコツアー」
日 巻
大好評企画「里山のリース作り」里山の恵

東谷津レポート

写真/会員 山梨光明



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会公式ホームページ「東谷津のページ」でカラー写真を公開中！天然の
美しさをぜひご覧ください。(写真/左からショウジョウトンボ、カメムシ類の卵、アカイロトリノフンダマシ)

やませみ 69

発行日/2014年10月1日
編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
埼玉県飯能市柳町18-17
●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビングッドフェ
ロー」「丹三郎」「飯能市立図書館」「飯能市市民
活動センター」にあります。
●「やませみ」へのご意見を下記アドレスへお寄せ
ください。投稿もお待ちしています。

募
集
中



1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけ
で発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然
を守る会」は、この地の自然をいつまでもという
思いで、様々な活動を続けています。どうぞあな
たも会員になって活動を支えてください。
*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員 10,000円
●賛助会員………1口10,000円
*会費・カンパ送り先…郵便振替口座
「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」
00580-9-16342



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No.69

2014.10.1

やませみ

風に乗るんだ

それで行くんだ

かなわぬい処へ

たどりつくんだ



- もくじ
- フランス・ブルゴーニュ農村の旅
 - 山梨県でのチョウ保全活動に参加して
 - 旅の話「阿蘇高原」「ゆっくり走る楽しみ」
 - 東谷津ほとけどじょうの里だより
 - モニタリング1000里地調査
 - 第3回「てんた里山バザール」
 - 東谷津レポート
 - ふる里散歩

フランス・ブルゴーニュ農村の旅

農楽里（のらり）ファーム

遠藤夏緒（会員・長野在住）

6月20日から7月2日まで、フランス・ブルゴーニュ南部の農村を巡る旅を体験してきました。

今回の旅は、ブルゴーニュ在住約30年「フランス田舎めぐり」（JTB出版）の著者大島順子さんによりまずコーディネート&通訳、そして大島さんお友達のドライバー&ガイドという、とても贅沢で貴重な、そして特別な旅でした。大島さんとの出会いは、約2年前、「まちむら交流きこう」主催のグリーンツーリズムセミナーでした。講師の大島さんの、フランスの農村や農業の最新事情についてのお話しはとても面白く、一度フランスの農村を肌で感じてみたいと思っていたのですが、それが実現したのでした。

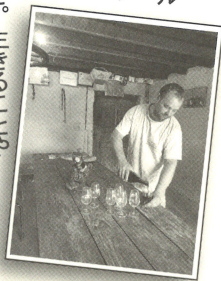
12日間の滞在の内1週間を、ブルゴーニュ地方のソーヌ・エ・ロワール県シャンプレシー村にある17世紀の石造りの貸別荘を拠点として、周辺地域の文化史跡めぐりや農家レストランでの食事等グリーンツーリズムを楽しみました。1日の走行距離が300キロ！は、もう当たり前前の長距離移動の周遊で、どの料理もワインもとても美味しいので胃袋と体力勝負の旅でもありました。（レンタカーでの全走行距離は3000キロに及んだそうです！）。そして、フランスに到着した最初の晩とブルゴーニュ最後の晩は農家民宿の体験、フランス最後の2日間はパリ市内でのホテル滞在でした。旅の内容は全内容がとてもこの紙面では書ききれないので、印象に残った



エピソードなどいくつかご紹介したいと思います。（詳しい旅の内容にご興味のある方は、ブログ※をご覧ください。）

まずは、景観の美しさと広大さ。緩やかな丘陵地帯の牧草地やワイン用のブドウ畑などの中に、中世のお城やロマネスク様式の教会などが点在し、どこを切り取っても絵になる様な美しさでした。

次に、ブルギニョン（ブルゴーニュ人）達の明るさ、陽気さ。生きることを食べることに、ワインを飲むことを思い切り楽しむのです。腰が曲がって足元もおぼつかないようなお年寄りでも、ちゃんと身なりを整えて、レストランでフルコースを平らげるのには驚きました。また、ブルゴーニュは、フランスの中でも郷土愛がとても強く、ブルゴーニュを称える民謡が何十曲もあり、「陽気なブルゴーニュの子供たち」という歌は、「僕の横にはいつも酒瓶がある。いつもワインで顔を洗っているからへまはしない！」という様な酒飲み賛歌！でした。小さなワイン農家でワインの試飲をしながらの会話では、「皆さんは、何歳からワインを飲んでいるのですか？？」という質問に、「そりゃあ当然、哺乳瓶からだよ！」というお答え！今の50代の人の高校時代には給食でワインが出ていたというほど、ワインは水のような飲み物なりました。



ブルゴーニュの郷土料理として印象に残ったのは、やはりエスカルゴ。エスカルゴは、フランスの中でもブルゴーニュが一番の産地なそうですが、1970年代には農薬の使用により激減してしまったそうです。それが減農薬や無農薬の農場の広がり、また生息数を増やしてきたのだとか、それでも、取り放題ということは出来

ず、解禁日が決まっていますその前に捕まえると1匹5万円くらいの罰金か禁固刑が定められているということでした。それに、あまり小さなものは捕まえないように、ということ、サイズを測る専用のスケールもあるのだそうです。何箇所か行ったマルシェのお野菜たちは、どこもお野菜が生きていました。不揃い泥付き当たり前。木箱の中に裸で入れられており、すべて対面販売の量り売り。日本のようにビニール袋に小分けにされて売られているお野菜は一度も目にしなかつたと思います。今フランスの農業で大切にされていることは、一番がやはり地産地消。次が、ピオ（有機栽培のお野菜）だそうです。マルシェでも、ごく普通のおばさんと生産者が、「あなたのはピオ風なんですよ？」「うちのは真正銘のピオだよ」等という会話を笑顔で交わしているのです。



美しい自然と美味しい食べ物とワイン、そして豊かな人情。たった10日間の滞在でしたが、ドライバーさんの「僕はフランス人ではない。ブルゴーニュ人なのだ」という弁の意味がよくわかる素晴らしい旅でした！

ほんの少しのエピソードだけでごめんなさい。もう少し詳しくお話を聞く中、時間が設けられますので、どうぞご参加ください！

山梨県でのチョウ保全活動に参加して

日本チョウ類保全協会会員 大石 章

8月中旬、山梨県某所でのゴマシジミの保全活動に参加した。ゴマシジミは草原や湿地に生息する絶滅危惧種の小さなチョウだ。主催の日本チョウ類保全協会は、各地でチョウ保護活動や保護活動支援を行っている団体で、私も会員になっている。実は、日本のチョウの約3割は絶滅危惧種だ。その多くが草原のチョウで、草原は開発されやすく、あるいは植林や放置されて林や藪になると生息できなくなってしまう。チョウは自然環境の細かな変化を測るバロメーターと言え、そのため里山再生が進む天覧山でチョウのモニタリング調査を毎月行っている。その調査結果では、チョウは増えていない状況にあり、そこで参加者を募集していたこの活動に参加してみた。

場所は、標高1000m以上の棚田が並ぶ山間地。休耕田や斜面の草原がゴマシジミの生息地になっていて、地域住民の理解を得て一部を借用している。最初の作業は、チョウの食草ワレモコウや吸蜜用の花を残しながらの鎌での草刈り。住民がチョウの保全に協力する代わりに、ポランティアが草刈りをしてくれるという仕組みだ。主要な保護地にはネットを張り巡らし、シカなどが入り込まないようにしている。草刈りはあまり刈りすぎないようにしたいのだが、住民の手前ある程度



トモエソウ



羽化したばかりのコミスジ



保全活動地

刈らざるを得ないとのこと。残すべき植物の見分けがつかない作業自体が難しい。その後、保全地区内を歩きながら出てくるチョウを調査した。残念ながら肝心のゴマシジミ（前日は飛んでいたのに！）が見られなかったが、他の珍しいチョウが見られたほか、シデシヤジン、トモエソウなど飯能では見られない花も観察できた。このほか、卵調査も行っているが、ゴマシジミは保全活動にも関わらず増えていないとのこと。ワレモコウが少なくなった所には、種採取して自宅で育てたものを植えているが、枯れてしまったものもあった。他のチョウ保護地でも、はつきりとチョウが増えていたり、は少ない。増えた年があっても翌年は天候等により減少したり、一喜一憂という状況が多いようだが、これが自然とすることなのだろう。いずれにしても、保護活動をやめれば、藪が拡大し採集が横行してチョウが減少することは確かだろう。地道に工夫を重ねながら活動を継続していくしかなさそう



でも今回は、チョウ好きな参加者とはすぐに仲良くなり、チョウに関する話が自由にでき、午後はあちこちチョウを見に連れて行ってもらう、数十年ぶりの楽しい1日になった。

ウグイスカズラ

モニタリング1000里地調査

植物調査◎毎月11日（午前8時半～午後1時頃まで）
集合：能仁寺山門前
（問合せ：黒住080-3458-1539）

蝶調査◎4～11月第1土曜日（午前10時～12時頃まで）
集合：能仁寺山門前（晴天のみ）

*この調査では、毎月1回植物調査のほか蝶などを調査しています。他にも季節毎に、カエル、鳥、ホタル、カヤネズミの調査も行っています。あなたもぜひご参加ください！興味のある方は下記までお問合せください。
(ezh01701@nifty.com 大石)

ルリタテハ カワセミ

東谷津ほとけどじょうの里 作業と石窯

東谷津ほとけどじょうの里では、基本的に月2回（第2・第4日曜日 10時～15時）現地を集まり、保全作業や石窯でのパン作りなどを行っています。作業は、トラスト地の整備、薪作りなどです。またみんなで手作りした大きな石窯で、パンやピザや焼き芋を焼いています。ぜひ、お気軽にご参加ください！

●問合せ：早瀬042-977-1890

阿蘇高原

文：会員 長谷川行雄

この度、理事になりました。谷川行雄です。第二、四日曜



の作業のときの石窯でパンを焼くのを楽しみにしています。今後ともよろしくお願ひします。今回は旅の話をとということでしたので、九州に行ったときに訪れた湯布院、阿蘇外輪山の話をしたと思います。

九州に行くのはこれが初めてで、九州に行ったら是非行きたいと思っていたのが熊本阿蘇。今回の旅行で阿蘇は無理でしたが外輪山にある大観峰まで行く事ができました。別府からは「やまなみハイウェイ」で阿蘇外輪山に行く事ができます。途中湯布院の由布岳と金鱗湖に立ち寄りしました。

この由布院はダムやゴルフ場などの建設を阻止するなど、地域住民の意識の高さが伺えるところでした。その反対運動の力を地域活性化に向けて映画祭や音楽祭などを開催し、今では静かな高級温泉地として定着している事がすばらしいです。詳細はこちら

旅のはなし ———— 旅のはなし ———— 旅のはなし ———— 旅のはなし ———— 旅のはなし

ゆっくり走る楽しみ

文・写真：会員 三橋文江

50°Cバイクの旅にはまって今年で10年、初めは沖縄、その後は北海道が続いている。

小さなバイクで走るのは楽しい。まず気になる木や花などが目についたらヒョイと止まれる。同じように好きな和菓子屋も見つけたらすぐ止まれる。古い街並みに行き当たると、小さな路地でもクルクル走り回って、小回りのきくことこの上ない。

京都の橋の上にさしかかった時の事、横殴りの風雨になぎ倒されそうになったことを思い出す。しかし、そんなことも、ゆっくり走ることによって感じるあちこちのののののの魅力にかき消される。

各地で、その土地に深く根ざして生きている人とも会った。沖縄で出会ったHさんは芭蕉布の作家になりたいと、東京から移住した人だった。芭蕉を育てることから奮闘中の若い彼女は「あまりにも厳しい道です。」と言う。しかし、その眼差しは強く、深く印象に残った。

をご覧ください。http://www.nira.or.jp/pdf/taidan7.pdf

さて、金鱗湖から阿蘇の外輪山を目指しました。外輪山の麓から景色が一変し辺り一面見渡す限りの草原です。モコモコとした地形がとても不思議でした。その草原は阿蘇外輪山北側の尾根まで続いていました。大観峰は外輪山の内側の縁にあり、その周囲も一面が草原でした。行った当時はこの草原は火山の溶岩かなにかで木が生えないのかな、と書いていた後で調べてみると、草原は人が火入れをして維持していると知り、その広大さと1000年も前から維持されていることに驚きました。阿蘇は酪農が盛んで、家畜を放牧する土地としてその草原が大昔から維持されているのでしょう。ただ、今は草原の維持も人手不足で厳しくなっているようです。

会員の大石さんにこの草原の話をしたところ、興奮気味に「その草原にはオオルリシジミという珍しいチョウがいるんだよ！このチョウは草原にしかないんだ。」と話してくれました。そう考えると人の営みもまた自然の一部で、里山維持もまさにそうだと思います。

(写真提供：会員 早瀬あかね)

あれはまた北海道、礼文島でのことだ。その日はバイクを一日宿に置いて島縦断11時間ウォークに挑戦。すばらしい高山植物の宝庫の中を歩いていると、前にビニール袋とスコップを手にしゃがんでいる人がいる。何をしているのか尋ねると、「外来種から、この礼文の植物を守るため、それとおぼしきものを抜いています。」とのこと。この広大な草原で！と驚き、そしてまた感謝した。こうした地道な努力あっての礼文なのだ...

今年の旅は阿蘇を中心とした九州。出発はあと1週間後だ。いったいどんな旅になるのか楽しみだ。



2009/08/14

第3回「ほとけどじょうの里」で第3回里山バザール開催します!!

今年も谷津田で「里山バザール」を開催します。秋の一日、石窯の周りで開く「小さな森の市」を楽しみませんか！てんたの会でも石窯で焼いたパンやピザを販売します。ぜひぶらりと「里山バザール」を訪ねてください！

日 時 ■10月19日（日）午前11時～午後3時（雨天中止）
会 場 ■天覧山東谷津「ほとけどじょうの里」
（東谷津トラスト地・ニコニコ池のある公園を通り、天覧山登り口で右手に折れて山道を直進200m）
主 催 ■NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会（てんたの会）

出店者を大募集!!!

食べ物や雑貨、野菜等々、何でもOK。

あなたの小さなお店を開きませんか。出店料無料。詳細や出店希望の方は042-977-1890（早瀬）までご連絡ください。